

第 7 次斜里町総合計画の進行管理（令和 6 年度行政評価）について

1. 進行管理の根拠

第 7 次斜里町総合計画では、計画の実効性を確保するため、PDCA サイクルに基づいた進行管理を行うことを定めています。

（第 7 次斜里町総合計画より抜粋）

基本施策それぞれについて、現状と課題を明らかにした上で目的を定め、具体的な取組みと、その目標がどれだけ達成されたかを把握するための数値目標を設定し、まちの現状を目指す姿にどれだけ近づいているか評価しながら、その結果を活かしていくという PDCA サイクルによりまちづくりを進めていきます。

また適切に進行管理を進めるため、行政内部に「総合計画進行管理委員会」を設置し、基本施策それぞれについて行政評価を行うとともに、財政収支との整合をとるために、5 年間を単位とした「実施計画書」を作成し、中期的な財政見通しを持ちながら計画の推進をはかります。

2. 進行管理の目的

本進行管理は、以下の 4 点を主な目的として実施するものです。

- （1）計画の実現度の客観的な把握
- （2）施策推進における問題点や課題の明確化
- （3）明らかになった課題への改善策を、今後の施策展開に活かすこと
- （4）計画の進捗状況を公表し、町民への説明責任を果たすこと

3. 評価方法

総合計画に位置付けられている基本施策（全 67 施策）を評価対象とし、令和 6 年度における各基本施策の実施状況や成果、課題等をもとに、行政内部の進行管理委員会が評価を実施しています。

評価にあたっては、あらかじめ評価基準を設定し、「指標面」「実績面」の 2 つの軸で行い、これらの結果を踏まえ、最終的に委員会としての総括評価を行いました。

＜開催経過＞	第1回進行管理委員会	令和7年7月28日（木）	町長、副町長、教育長、各部長職、政策推進課長
	第2回進行管理委員会	令和7年8月12日（火）	町長、副町長、教育長、各部長職、総務課長、政策推進課長
	第3回進行管理委員会	令和7年10月6日（月）	町長、副町長、教育長、各部長職、政策推進課長

＜評価基準＞

評価	指標面	実績面
	施策の成果を客観的に示すKPIが、目標に対してどうであったかを評価	KPIの数値だけでは測れない、実際に行った取組（事業）の内容やプロセス、成果の質を評価
A （良好）	・更新された数値が目標を達成し、かつ最終目標に向けた進捗が計画を上回っている。 ・KPIに影響を与える取組が計画以上に進捗しており、次の指標更新時に目標達成が見込まれる。	・計画以上の有効な取組が実施され、期待を上回る、または計画どおりの成果が出ている。 ・効果的な連携が、成果を大きく向上させる要因となっている。
B （順調）	・更新された数値が目標を達成しており、最終目標に向けた進捗は計画どおりである。 ・KPIに影響を与える取組が計画どおり着実に実施されている。	・おおむね計画どおりに取組が実施され、期待された成果が出ている。 ・必要な連携を図りながら、円滑に事業が進められている。
C （要改善）	・更新された数値が目標に届かず、最終目標に向けた進捗に遅れが生じている。 ・KPIに影響を与える取組が遅延・停滞しており、次の目標達成に懸念がある。	・課題が多く、期待された成果が十分に出ていない。 ・連携不足が、非効率や成果不振の一因となっている。改善の余地が大きい。

5. 評価結果 ＜詳細は資料2-2 参照＞

第7次斜里町総合計画の初年度として、必ずしも全ての施策が順調に進捗しているとは言えないものの、多くの分野で着実な成果が確認され、鳥獣対策をはじめ、道の駅の販売力強化、図書館や博物館活動の推進、ふるさと納税の増加、新たな観光振興財源といった自主財源の確保において具体的な成果が上がっています。その一方で、「全町的な人材不足」「公共施設の老朽化」「地域コミュニティの担い手不足」といった、町の持続可能性に関わる構造的・複合的な課題が一層深刻化しています。また、国保病院の医師不足や地域防災力の低下など、町民の安全・安心な暮らしに直結する分野で喫緊の対応が求められる課題も浮き彫りとなっています。

今回の評価結果を踏まえ、進捗に遅れがみられる施策や顕在化した課題について、その解決に向けた取り組みを一層強化し、第7次斜里町総合計画が目指す基本テーマ「みんなで一緒にとりくむ、持続可能なまちづくり」の実現に向けて引き続き取り組んでまいります。